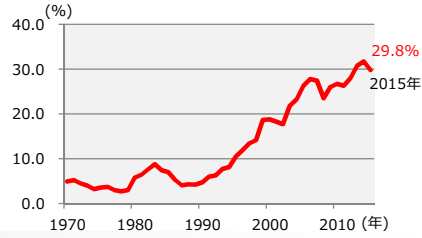




4年目を迎えたアベノミクスは、日本経済の収益力を取り戻すべく、第2ステージにおいて年率+3.5%の名目GDP拡大を目指しています。『価値創造を好循環させる担い手[=企業と投資家]との間で、企業の情報開示を契機とした直接的な「質の高いコミュニケーション」を国際水準で促進させる。これにより企業と投資家の両者が持続的成長に向かっていく』という認識に基づき、日本政府は英文開示の側面からも企業統治のレベルを向上させ、海外から多くの投資マネーを呼び込もうとしています。日本企業は引き続き海外に向けた説明責任と情報開示の水準を高める傾向にあり、本紙ではその状況を、直近1年間の動き、そして過去5年間の開示状況の推移を示しながら概説します。

### 外国人株式保有比率 (東証/金額ベース)

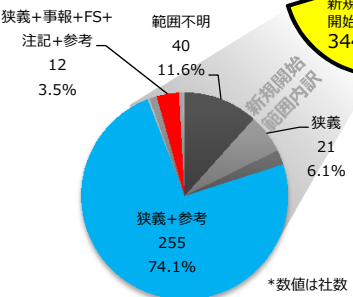
チャイナショックを主因とする5兆円強の売越し、ならびに大型IPO(郵政3社)による個人株主の増加に伴い、2015年度の保有比率は前年度の31.7%(過去最高水準)から4年ぶりに低下し、**29.8%**となっております。



## 英文招集通知

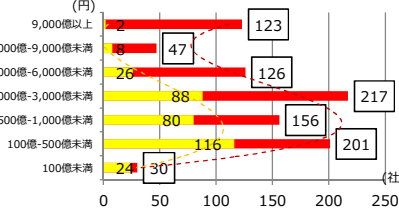
### 開示状況

東証1部上場企業1,973社中、英文招集通知を作成している企業は**903社**(45.8%)となっております。**2社に1社弱**が英文招集通知の開示をおこなっています。



### 時価総額別の作成数

100億〜3,000億円未満が新規開始先のボリュームゾーンとなっております。

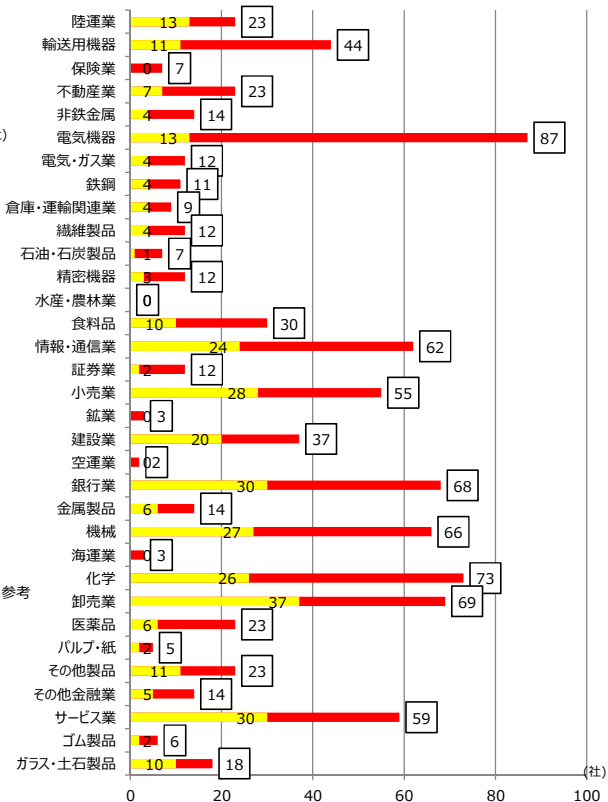


### この一年の動き

英文招集通知を作成している903社中、**344社**(38.1%)が当年新たに英文招集通知の作成を開始しました。そのうち、**255社**(74.1%)が[狭義+参考]型、**12社**(3.5%)が[全訳]型となっており、新規開始したグループには昨年引き続き「**スモールスタート**」と呼ばれるトレンドがみられました。

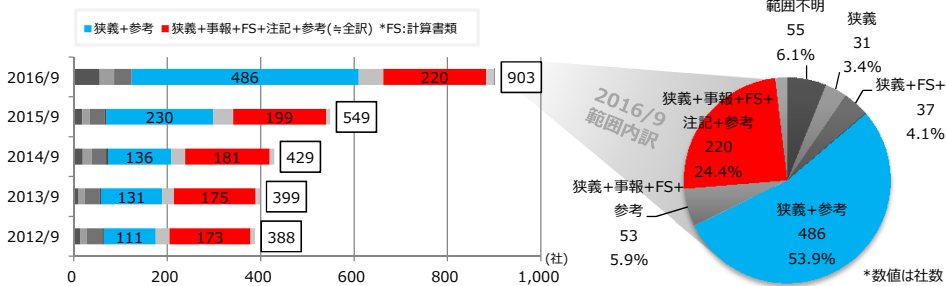
### セクター別の作成数

昨年は、新規開始した企業が各セクターで10社未満に留まり、銀行のみ20社超、と1業種で強い作成トレンドがありました。しかし当年は**新規開始企業が20社を超えるセクターが8業種出現**しており、複数業種で強い作成トレンドが発生したことがわかります。

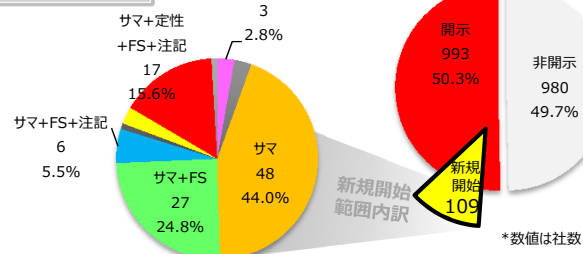


### 開示範囲と推移

CGコード対応の影響で、英文招集通知を作成する企業は大幅に増加しています(YoY64.5%増)。開示範囲は[狭義+参考]型が[全訳]型のいずれかか殆どの状況ですが、今年は[狭義+参考]型で開示をおこなう企業のウェイトが非常に大きくなった印象を受けます。

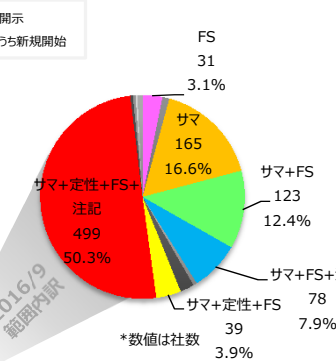


## 英文決算短信



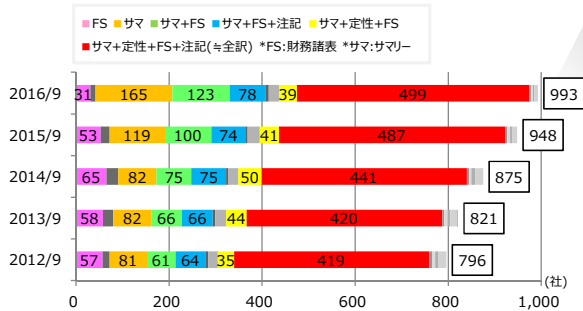
### 開示状況

東証1部上場企業1,973社中、英文決算短信を作成している企業は**993社**(50.3%)となっております。**2社に1社強**が英文決算短信の開示をおこなっています。



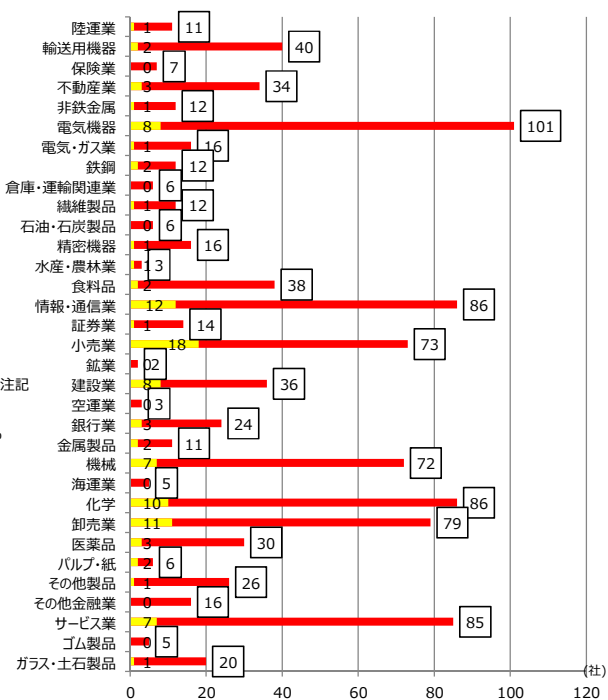
### この一年の動き

英文決算短信を作成している993社中、**109社**(11.0%)が当年新たに英文決算短信の作成を開始しました。そのうち、XBRLタクソノミが活用できる[サマ][FS][サマ+FS]型を合計すると**78社**(71.6%)となり、[全訳]型の**17社**(15.6%)を圧倒しています。昨年以上に、XBRLタクソノミを有効活用してスタートアップする機運が強くなっています。



### セクター別の作成数

当年は情報・通信業、小売業、化学、卸売業で新規開始企業が10社を超えました。



### 開示範囲と推移

英文決算短信を作成する企業は堅調に増加しています(YoY4.7%増)。市場の半数が既作成のため、CGコード対応の影響は限定的ですが、[サマ]型と[サマ+FS]型の、コンパクト型が2年続けて伸びていることは、**未作成企業が迅速にCGコードに対応している**ことを示唆しています。